

# 「花」をキーワードに個性的な地域づくりを（雄和町）

秋田空港を抱え、本県の玄関口としての景観整備を重点事業の一つとする雄和町。ダリア園を含む観光拠点施設「華の里」エリア、住民の生涯学習を目的とした「花いっぱい運動」など、「花」を活用した各種施策に取り組んでいます。

年々充実する観光拠点

糖塚「華の里」エリア

秋田市の南東に接し、中心部を雄大な雄物川が貫流する雄和町。秋田空港を抱え、秋田市をはじめ周辺市町村にアクセスする交通の要衝となる本町の「玄関口」として数多くの来訪者を迎え入れます。

空港からのアクセス道路に面した糖塚「華の里」は、「雄和国際ダリア園」を中心に、観光交流館「ヴィラ・フローラ」等の施設が集積された同町の観光拠点です。約1.2haの敷地を持つ園内には700種7,000株、世界の

国々の高品質なダリアが咲き競い、色鮮やかな花を觀賞するために多くの人が訪れます。このエリアではイベントも含めると、来訪者は年間20万人前後を数えます。また、背後

の斜面には1,000本の桜が植えられ、春の散策も楽しむことができます。今シーズンはキク科で白やピンクの淡い色の花をつける「クジャクソウ」が、ダリア園の周辺を取り囲むように、約1.5haにびっしり植栽されました。開花は9月～11月上旬で見頃の重なる鮮やかなダリアとのコントラストが際立つ上、道路から見える様子はエリア全体が華やかさで一変した感があります。

町では、今後ダリア園にチユリリップなど春～夏に咲く花を植栽し通年で花を楽しめるエリアにすることも検討しているとのこと。空港からのアクセス道路で最初に現れるいわば「歓迎」的要素の強い施設だけに、花を中心に印象付ける景観は本県のイメージアップに貢献しています。最近では同エリアでの花に



拠点施設ヴィラ・フローラの丘に敷き詰められたクジャクソウ。オフホワイトとピンクの花々が周辺を明るい雰囲気包み込む。(写真提供:雄和町)



全国でもトップクラスの規模を誇る「雄略国際ダリア園」

関するイベント等の開催も多く、内外に「花のまち」の印象を強めているほか、ダリア染めなどの特産品開発も試み始めるなど、特色を打ち出しています。

### 空港道路を彩る

#### 7kmのマリーゴールド

昭和59年に開催されたインターハイに合わせ、歓迎のムードを高めるために同町が始めたのが、「花いっぱい運動」。以来、今日まで根気強く継続されてきました。

空港道路沿いに植栽されたマリーゴールドは11万本、岩



沿道を飾る鮮やかなオレンジ色のマリーゴールド。

見川を渡る秋雄大橋から役場庁舎前までの約7kmもの区間に、満開となる9月中旬から見頃の終わる11月中旬までの間、道路を彩ります。ふ

つくらとしたボリューム感と鮮やかなオレンジ色の花々はドライバーの目を楽しませるとともに、道路の形や幅員を示すなど交通安全にも一役かっています。

また、自治会や施設、事業所等の各団体に苗の希望を取り、マリーゴールド、アゲラタム、サルビア等の苗を無料配布し、町内美化を兼ねた「花壇コンクール」を開催しています。現在は約50団体が申請・実施しており、地域の子供からお年寄りまでが参加し植栽するこの運動は、青少年教育・生涯学習を目的として

いますが、現在では住民意識も高まり、運動もすつかり定着しています。

### 産地化に向けた

#### ヤマユリの球根配布

同町ではここ数年ドライフラワー用の花の苗等を配布するなど、農業振興と絡めた転作物としての花き栽培を試みてきましたが、今度は食用・観賞用として野生種である「ヤマユリ」を産地化しようと、今年10人の農家に球根を各250球ずつ配布しました。同町では既に別の10農家が栽培に取り組んでおり、昨年は3,000球の出荷をしています。今回の配布分は2年後には商品として出荷できる見込みです。

として人気があるほか、切花としても香りが高く、また、庭や公園のアクセントとして造園業者からの需要も多いなど、近年ヤマユリの販路は拡大しています。栽培農家のグループでは今後、栽培技術の



転作田に咲くヤマユリの花。

### 住民を交え検討中の「景観条例」の策定

町では景観保存・創造を目的とした「景観条例」を策定するため、ワーキンググループを立ち上げて現在検討を行っています。メンバーは公募により集まった各世代に及び町民17名で、「道路・屋外広告」「河川・森林」「宅地・公共施設」の3つの専門部会を構成、この12月には骨子をまとめ、年明けから素案作りを行うことを目標に取り組んでいます。

討論会では、雄物川をはじめ自然の多い同町の環境保全とともに、やはり秋田空港からの来訪者に好印象を与えたいとの意見も多く見られます。各部会では小学生からのアンケートなども反映させながら、空港道路に乱立する広告看板による景観阻害の解消とともに、花を活用した各家庭の庭先づくりなども提案しています。

観光、教育、福祉、農業、各所管にわたり「花」をキーワードにまちづくりを進める雄和町。徹底した施策は現在の町の個性となっています。

球根は同町の菅野一吉さんが山林に自生するヤマユリから種を採取し育てたもの。直径は1〜2センチ、出荷時には5〜6センチ程度まで成長します。健康食品

向上や出荷時における大きさ・形などの規格付け、流通する市場の研究などの具体的な課題に取り組んでいくとのこと。また、安定供給を目指すため来年度を目標に生産組合を設立し、栽培から販売までを独立して行いたいとしています。

開花時には沿道の畑に咲くヤマユリも街並みの景観に一役かかことでしょう。